

事業コード	H25-建-継-25		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	海岸侵食対策事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	海岸事業		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	浅内海岸		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	能代市浅内		担当者名	副主幹(兼)班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政 策 名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施 策 名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	H11 ~ H27 (17年)		総事業費	14.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長 L=825.0m、人工リーフ L=300m×2基					
事業の立案に至る背景	浅内海岸は、男鹿半島北部の米代川河口部に位置し、遠浅で弓状の海岸線を有している。背後にはロケット開発に必要な研究施設である宇宙航空研究開発機構の能代多目的実験場があり、公開実験などの際には多数の見学者で賑わうほか、白砂青松として選定された「風の松原」に隣接しているため、一帯が憩いと安らぎの場として親しまれている。しかし、近年海浜の侵食が著しく、海岸保全施設が頻繁に被災している。このような状況から、海岸侵食防止及び海浜復元のための効果的な施設の整備を必要とする。					
事業目的	浅内海岸の重要性を鑑み、50年確率波にも耐えうる波浪抑制を沖合で行い、海浜の安定を図るとともに、既設護岸と組み合わせた面的整備を行うために、周辺環境(景観)に配慮し背後地の安全性が確保できる人工リーフによる整備を進める。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,400,000	1,400,000	0	
	経費 内訳	工事費	1,288,700	1,288,700	0	
		用補費	0	0	0	
		その他	111,300	111,300	0	
	財源 内訳	国庫補助	700,000	700,000	0	
		県 債	630,000	630,000	0	
		その他	0	0	0	
一般財源		70,000	70,000	0		
事業内容		人工リーフ設置 測量試験費	人工リーフ設置 測量試験費			
事業の進捗状況	全体計画 14億円 平成24年度末時点投資額 12.4億円 進捗率 89%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組みの(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	背後にある「多目的実験場」や「風の松原」等は、観光地となっていることから、毎年多くの観光客が訪れており、景観や自然に配慮した工法が必要とされている。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	海岸整備率				
	指 標 式	海岸整備率=整備延長/海岸保全延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	57.5 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実 績 値 b	56.8 %				
達成率 b/a	98.8 %	把握の時期	平成25年3月			

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	浅内海岸の背後地には、ロケット開発に必要な研究施設である能代多目的実験場が位置している。また、白砂青松に選定された「風の松原」に隣接しており、一帯が憩いの場となっている。海岸侵食の進行は、国土保全のみならず、観光や経済への影響も懸念されることから、侵食対策事業を実施する必要がある。	23点
緊 急 性	近年、浅内海岸の多目的実験場付近では海岸の侵食が著しく、汀線比較すると年平均5.5mの侵食が進んでいる。また、汀線の侵食により異常洗掘が発生し、緩傾斜護岸が被災する事例が発生している。これらのことから、早急に侵食対策施設を設置し、周辺を保全する必要がある。	15点
有 効 性	人工リーフの実施区間において侵食が収まりつつあることから、効果は高いと言える。また、景観を保全しながら侵食防止効果を得るためには、人工リーフ工が有効的である。	10点
効 率 性	事業の費用対効果は1.39であり、効率性は高い。また、人工リーフに用いられている被覆ブロックは、経済的かつ施工性に有利な4t型被覆ブロックを用いて施工している。このほかにも、フライアッシュ混合コンクリートの使用によるセメント量の低減や、ブロックの仮置き場確保による運搬費の低減などにより、コスト削減を図っている。	15点
熟 度	海浜の復元が成されてきていることから、当該事業に対する期待は大きい。現在のところ概ね計画どおりに事業が進捗しており、平成27年度の事業完成を予定している。また、汚水及び濁水の発生源対策や排出ガス対策型の機械の使用、再生骨材の利用などにより、環境に配慮した施工に努めている。	16点
判 定	ランク ( ○ I ● II ○ III ) 地元からの要望が強く、「必要性」「緊急性」「効率性」等から、本事業の評価は高いと考えられる。	79点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト削減に留意しながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 海岸事業

事業コード (H25-建-継-25 )  
箇所名 ( 能代市浅内 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	1 kmあたりの防護面積・人口	10 ha 以上又は 100 人以上	15	15	
		7 ha 以上又は 70 人以上	10		
		5 ha 以上又は 50 人以上	5		
		その他	0		
	浸水・侵食戸数	10 戸 / km 以上	10	3	
		5 ~ 9 戸 / km 以上	7		
		5 戸 / km 未満	3		
	波浪、浸食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5	5	
		被害は見られないが防護は劣っている	3		
優れている		0			
計		30	23		
緊急性	過去の被害実績	過去に 2 回以上の被害実績がある	5	5	
		過去に 1 回の被害実績がある	3		
		記録された被害実績はない	0		
	侵食の速度	1.0 m / 年以上	10	10	
		0.5 m / 年以上 1.0 m / 年未満	7		
	生命財産の危険性	背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される	5	0	0
越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される		3			
計		20	15		
有効性	災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5	5	
		侵食防止効果は現状と変わらない	0		
計		10	10		
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0 以上	5	5	
		1.0 未満	0		
	該当項目数	3 項目以上	5	5	
		2 項目	3		
		1 項目	1		
		無し	0		
	当初計画事業費からの増減	減少又は 10% 未満の増加	5	5	
10% 以上 30% 未満の増加		3			
30% 以上の増加		0			
計		15	15		
熟度	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が 3 事項以上	5	5	システム=秋田県公共事業環境配慮システム
		システムでの環境配慮事項が 1?2 事項	3		
		システムでの環境配慮事項がない	0		
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	3	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3	
参画していない		0			
参画している		3			
進捗率	計画より進捗している	10	5		
	概ね進捗 (90~100% 未満)	5			
	計画より遅れている (90% 未満)	3			
計		25	16		
合計			100	79	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80 点以上	II	
II	優先度が高い	60 点以上 ~ 80 点未満		
III	優先度が低い	60 点未満		